姫路医療専門学校 自己点検・自己評価

令和7年度（令和7年４月1日～令和8年3月31日）

評価委員会集計

項目	点検項目	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1　教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	・教育理念・目的・養成人材像は、明文化・文章化されており、事業計画に目標・方法等を具体化している。会議や研修等においては、理念等の徹底をしている。 常に業界とのコミュニケーションを図り、産学協同での教育を心がけている。業界が求める人材像を明確にするとともに、教科目標・教育課程・授業計画等の策定に活用している。 ・事業計画では「地域連携」「業界との連携」を掲げ、特徴ある教育プログラムを構築し、変化する社会に対応するために、中・長期の事業計画を策定し、毎年見直しをしている。 ・業界の人材ニーズは常に業界講師の方々や臨床実習先の指導者と情報共有を行い、その把握に努めている。教育課程編成委員会においてもニーズ、将来性などを聞きとり、常に特色ある教育活動に取り組んでいる。	・職業人教育を通して社会に貢献することをミッションとし、３つの建学の理念（実学教育・人間教育・国際教育）の実践、４つの信頼（学生、保護者からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を得られる様に学校運営する中で、各業界のニーズに即した人材育成を行っている。 ・令和６年度に救急救命士科を開設し、臨床工学技士科とともに救急医療に関する新たな特色ある教育活動にも取り組みを始めた。	4.0	・国際教育の充実は今後ますます重要になってきます。対策に手を打っておられる事と存じます。留学生対策についても。 ・地域連携や業界との連携を実施しており、常にアップグレードされている。救急救命士科開設も良い影響になっている。 ・理念や目的も時代背景で変化しても良い物です。変える必要がなくても適正であるかの見直しがあっても良いのではないでしょうか。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2　学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	・法人としては、事業計画・運営方針を定めることを重要視している。運営方針は学校事業計画書内に理念、目標、具体的な計画等と関連づけて明文化している。	・事業計画の構成は、 ①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的)、②運営方針(中期的に組織として目指す方針)、③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現する為の単年度の方針)、④定量的目標(入学者・教育成果<中退防止・国家試験合格数>・就職率等)、⑤定性的目標(人材育成や組織のあり方等単年度目標)、⑥実行計画(その方針を実現させる為の具体的な計画)、⑦組織図、⑧職務分掌、⑨部署ごとの計画・スケジュール、⑩意思決定システム、⑪収支予算書(５ヵ年)で毎年作成している。	4.0	・適切に運営されている事を確認しました。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	・毎年、業界のニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努め、明文化された事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての教職員が理解した上で各業務に取り組んでいる。			
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	・運営のための組織図・職務分掌・会議の目的と主催者（決定権者）は事業計画に含まれており、会議・研修で共有している。 ・会議、委員会等の議事録は開催毎に作成し、関係者に共有をしている。 ・組織運営のための規則・規定を設け、運用に不足がある場合は、運営会議で検討し改正を行っている。	・教職員の職場に関するアンケートを実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。 ・学校運営を活性化させ教職員の成長を図るためにも、学科・部署毎だけではなく、学科・部署間の横の連携を図る各種委員会を置いて、課題解決に取り組んでいる。		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか		・人事・給与に関する制度も就業規則に明示されている。			
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	・意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視し会議毎に参加者は選抜され、その中で主催者に権限は委譲されている。			
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4	・システムは、学生・入学者・卒業生・実習先・就職先等の対象別、教務・就職・広報等の業務別、において幅広く導入されている。学校セクション毎の情報システム化、学生の情報の管理、その結果としての業務の効率化が推進されている。	・「個別最適化されたサービスを展開し、変化する社会のなかで一人ひとりの学生の自己確立を支える生涯教育機関となる」ために、学園グループでＤＸロードマップを定め、令和６年度から新たなシステムとデータ活用がスタートしている。(広報DX・教務DX)		

項目	点検項目	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
3　教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	・厚生労働省による養成施設指定規則に従い、教育課程の編成と実施方針を定めている。 ・教育指導要領、学生便覧において、学科ごとの到達レベルである「養成目的、教育目標、学年・学期目標」を学生に明示している。 ・毎年度、各学科の事業計画の中で、教育目標や業界が求める人材像を調査し、その見直しと確認を行っている。業界ニーズに基づいた人材育成を行うため、常に業界の変化に対応するような情報共有を行っている。対人援助職としての技術、知識及び人間性を高めるため、早期年次からの見学実習や、学外実習へ向けての患者モデルによる学内実習など多彩な実践形式の授業を計画、実施している。 ・授業には、各業界の専門職の方々を講師に召還し、学生の状況を把握しての意見を頂き、臨床実習においても、その評価を教育課程編成に反映し、また「教育課程編成委員会」を設置して教育課程を編成している。 ・キャリア教育は学校行事や課外活動においてその目的・目標を定めて実践している。学生の職業理解を深め、学習のモチベーションの向上を図るために、卒業生の授業、行事への参加を積極的に推進し、各自の将来像を明確化する教育プログラムも実施している。 ・授業評価はシステムが整備されており、毎年実施している。	・「キャリア教育」については、学園グループで策定した「キャリア教育ロードマップ」に基づき、「専門職業教育」と「キャリア教育」を実践し、専門知識・技術のみならず職業人として必要な力を身につけるプログラムを実施している。 ・R7年度は、Ｒ５年度から行っている、教育プログラム改善と教員の指導力向上を目的とした学科横断の組織となる学年別委員会を再構成し活動した。この委員会の連携によって、特にキャリア教育プログラムの「入学前教育」の改善が行われ、「R8年度導入教育」の改善につなげられている。中期的には「国家試験合格」「就職対策」の向上を目標としている ・授業評価は専任教員及び講師に対して行っており、教員・講師との連携を深めフィードバックできる環境を整備している。 ・全国リハビリテーション協会で推奨される「一般社団法人リハビリテーション教育評価機構」が実施する教育評価認定審査を受け、適合校「A」の審査結果であった。	4.0	
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4			4.0	・教育内容については、教員・講師ともニーズを拾い上ながら実施されており、国家資格の合格率につながっていると実感する。 ・第三者評価機構でA判定というのはすばらしいですね。教育に関してしっかり計画されていることがわかります。
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	・成績評価や単位認定の明確な規定が学則や履修規定により明文化されており、教員・学生ともに周知されている。進級判定会議を開き、議事録も記載保存している。 授業では、研究発表の機会を設け、発表会・報告会で成果を把握できるようにしている。臨床実習報告会では全学生が発表を行い、臨床実習における成果を把握し、下級学年の学生も参加して臨床実習の準備学習としている。 ・履修規定や当該年度の教育目標は各学期の開始時に、新入生・在校生オリエンテーションで学生に周知している。 ・取得目標資格は教育課程上明確に位置づけられており、国家資格取得の対策は、1年次から平常授業のみならず、国家試験対策講座等を行い、卒業時までのフローで計画をしている。また学力不足の学生に対しては個別面談から学生の到達度に応じて、補習や補講など様々な取り組みを実施している。	・国家試験対策については、滋慶学園グループのスケールメリットを活かし、学園が設置する国家試験対策センターの集約のもと、全国のグループ校が持つノウハウを共有し国家試験対策を講じている。 ・「技術力・実践力」向上のために、全学科でＯＳＣＥを実施し、外部講師や卒業生に参加して頂き、外部評価を導入して教育に活かしている。 ・定期的に模擬試験を実施し、成績のデータ化、蓄積による分析結果に基づいた受験対策ができる体制が整備されている。また、国家試験対策研修を行うことで担当する教員のスキルアップに努めている。	4.0	・1.2年生で行われるコクトレ3年生では週一回の模試グループワークなどをくり返す事で知識が定着してゆく。徹底された学習プランが合格率100%につながったと思います。今後も期待しています。 ・試験対策で度胸をつけるのは大切です。すばらしい。但し、同じミスをする学生にはつまづきを根本的に洗いなおす必要がある。
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3				
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4			4.0	・国家試験対策は学科によって差があるかもしれないが、よく考慮されていると思う。
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	・各科ともに「養成施設指定規則」の規定に基づき、また、学科の到達目標を達成するために、その分野のスペシャリストである事が採用条件である。教員は学園の方針、養成したい学生像を理解し、情報の共有や問題解決につなげている。 ・教員は、専門の業界団体、学会に加入しており、それらの主催する学術大会、セミナー等への参加を奨励している。また、教育者としての専門性の向上においては、上記のFD活動は基より、学園グループ、神戸滋慶学園内での様々なレベルの研修会を実施している。 ・ 教員組織は目標実現のために学科内外の情報を共有し、チームワークを必要とされる。各学科会議、各委員会、運営会議を中心に常に教員間の情報の共有化を図っている。	・教員の研修参加については、研修のオンライン化が進み、各種研修の受講機会が増えた。 ・キャリア教育や国家試験対策、学習能力開発の分野では委員会活動を活発化して、成功事例や対策の共有を行い、教員組織の連携とチームワーク向上を図っている。 ・リーダー会議を定期的に行い、各科指導体制や教育効果を学校全体で見える化し、プログラム改善や指導力向上を目指ざす取り組みを行っている。	3.7	・研修によって教員の質が向上するのは歓迎するが、教員の時間的な余裕や体力が心配。 ・教員が多忙により、研修会や学会等参加できていないのではないか。また、臨床工学技士では新たな業務が行える様、大臣指定の告示研修を受けなければならないが、教員の受講が少なく、新カリキュラムに対応する学生の指導を行う教員にも受講いただく様、進言させていただく。
	3-12-2 教員の資質への取り組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					

項目	点検項目	評　価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評　価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
4　学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	・キャリアセンターを設置して求人先の確保を行い、担任と連携して学生の就職活動の支援を行っている。就職率の向上には、外部施設での実習やインターンシップが有効と考え実施している。将来の就職を見据え、臨床実習先の開拓も続けている。	・求職ニードが高く、就職希望者に対する就職率は１００％。ただし、学科により就職決定時期が遅くなる傾向があるので、早期就職決定がモチベーションアップにつながるよう指導している。	4.0	・求人先の情報が学生にも保護者にも分かりやすいとより良い
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	4	・国家試験合格率の向上のためには、前年度の分析を行い、1年次からの国家試験対策準備授業、2年次からの模擬試験など3年間のフローで対策を立てることが重要と考えプログラムを実施している。また、学習面だけでなく、生活面、精神面の指導も行っている。	・前年度からの対策の効果が出てきており、課題であった学科も成果を得られた。 ・R7年度は、ＡＩを活用した学習アプリを取り入れたり、学習環境作りや情報共有方法なども含めて、常に３年間のフロー教育の改善に取り組んでいる。	4.0	・取得率の向上は取組に対して成果が出ている。 ・国試合格率（者）向上は必須、頑張っておられる様子はうかがえます。
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	・「卒業生の就職先での評価」は教育成果の評価基準のひとつであり、就職先からの聞き取り、また卒業生の来校時に聞き取りを行っている。 ・学園として、離職調査を就職後１年目、３年目の時期に行っている。それ以降の時期の調査も検討していく。		3.7	・卒業生が来校する機会は少なく、卒業後は接点を作りにくいと思う。 ・自己評価で何が理由で3ですか。就職率はどうなのでしょうか。国試で不調の学生さんはどうなっていますか。 ・離職対策も大切です。人間関係、給与関係等大変な職場です。個々の原因相談が大切になる。がんばっておられる。 ・離職の若年化が進んでいる印象です。学校側からのフォローがあると卒業生は心強いと思います。
5　学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	・入学時から就職準備のプログラムを実施している。キャリアセンターを設置し、求職活動、求人情報の管理、就活セミナー、就職対策講座の開催、個別就職活動支援、面接指導などを実施している。	・地域の病院からの求人説明の訪問が増加している。	4.0	・就職活動が遅くなった理由を本人が自覚、言語化できることで、受け入れ側の準備、対応もしやすいと思う
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	・退学防止のために入学前から学生一人ひとりを見ることに重点を置き、学生の諸問題の早期発見と学習面、生活面のサポート体制を整備している。教員の教授力、サポート力の向上のための研修も行っている。 ・学園グループが独自に開発した「学生サポートアンケート」を実施し、問題を持つ学生を早期に発見し対応することで中途退学防止へつなげている。また、学園グループは独自のカウンセリング研修を設けており、全教職員がカウンセリングマインドを持って、学生に対応できるよう研修を受け、資格を取得している。	・前年度課題のあった最終学年での退学率は低減したが、１年生の学業不振からの退学率が上がってしまった。１年次・２年次の対策だけではなく、入学前から行う対策を再構築することを計画している。	3.9	・1年生の学業不振については、入学する学生の意欲にも依るため単年では評価できないと思われる。トラブルやメンタルケアなどを含めたサポート体制は充実していると感じている。 ・退学者数が増加しているので具体的な方法・対策・手段を講じる必要を検討してください。 ・学力の低い学生を受け入れる為、授業についていけない方も存在するかと思います。教員の方の努力だけでは難しい学生もおられると思います。職能団体としても学生確保に対して養成校と更なる連携に努めてまいりたいと思います。 ・十分対応されていると思います。
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	・学習面、メンタル面・健康面、経済的な問題などの相談を各所で受け入れる体制を整備し、有効に機能させている。必要な学生には、学内のスクールカウンセラーを配置し、カウンセラーと教職員がチームとしてアプローチし、問題の解決にあたっている。			
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	・学生の経済的側面の支援は、研修を受けた職員を配置、事務局職員による個別相談の実施によって、事前に学費相談を受け、奨学金や学費ローン等アドバイスをしている。 ・健康面、生活環境支援では、日常的に担任による欠席理由の把握、学生面談での聞き取り、健康診断後の再検査の必要性の周知など体制は整備している。学生の変化に気を配り注意している。 ・県外学生(需要)が少ないことから学生寮はないが、一人暮らしの学生への生活面のサポートも行っている。 ・学友会活動として課外活動を支援する体制の整備はできている。	・学費支援システム・特待生選抜制度・在校生援助奨学金など完備している。また、国の就学支援新制度の対象校となる機関要件も認められている。 ・健康診断をはじめ、環境衛生委員会を中心に、感染予防にも努めている。 ・課外活動としてレクリエーション大会や学園祭（リコルス祭）を実施、学生主体の同好会活動の体制は整えている。 ・ＳＮＳや若者の遭遇し易いトラブル対策など、警察とも連携して、安全な学生生活のためのセミナーなどは随時行っている。（自転車法律改正・税金セミナー）	4.0	・学校は駅に近く通うのに不自由ははいのではないかと思います。生活は保護者との連携が大切。 ・学生の悩み苦しみを親身になって相談にのっておられる。すばらしいです。
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4				
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3				
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3				
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	・本校のミッションである職業人教育や就職、学生の資格取得実現のためには学校だけでなく家庭を中心とした学校外での学生動向も把握するように努め、問題解決にあたり、保護者との連携の強化を図っている。 ・入学前の３月には保護者会を実施。支援方針と体制をご理解頂き、保護者に学校との協力をお願いしている。	・入学前教育ととらえている、入学前のオープンキャンパスには多くの保護者の方が本人と一緒に参加している。オープンキャンパスでは保護者会を開き、学校の考え方や個別質問に対応している。 ・問題を抱える学生の保護者との連携はしっかり行えているが、それ以外の学生の保護者とは平素のコミュニケーションをより深めたいと具体策を検討している。	3.7	・現状でも不足はないと感じるが、より保護者と連携をとることができる案があれば期待したい。 ・今まで以上に親との連携、絆が大切になってきました。すばらしい取り組みです。 ・専門学校ともなると保護者とのコミュニケーションはとりにくいと思います。十分ではないかと思います。

項目	点検項目	評　価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評　価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
5　学生支援	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか 5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか 5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	・本校の方針として「卒業後の自己実現、キャリア開発」のための卒後生の支援は、来校や電話、メールなどで積極的に行っている。 ・また、同窓会活動として勉強会、情報交換会を実施する方針である。毎年、卒業年次の同窓会委員を選出し、名簿の整備を行っている。 ・言語聴覚士科は神戸医療福祉専門学校三田校の言語聴覚士科と合同で、オンラインによる研修会を毎年実施している。	・社会人の経済的支援となる「教育訓練給付制度～一般教育訓練講座」の指定を、作業療法士科・言語聴覚士科・臨床工学技士科が受けることができた。また、今年度に給付金が多い「専門実践教育訓練講座」の指定を、作業療法士科、臨床工学技士科を受けることができた。	3.9	・社会人の支援が充実してきたのはとても良いと思う。社会人の入学が増えるよう告知を行なってほしい。 ・同窓会が生涯教育の一貫として充実すればすばらしい。学校の誇りとしてお願いします。 ・同窓会活動や学校での勉強会などを通し、学校教員とのつながりが卒後も強く持てるよう希望します。
6　教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備教育用具を整備しているか	4	・実習においては、実際の現場で使われている設備を備えていることが不可欠である。実学教育に力を入れている本校の設備、施設はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	・R7年度は、救急救命士科の新3年生のため、また新1年生の人数が増えたことによる資機材などを更に整備した。	4.0	
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	・厚生労働省による各養成施設規定で定められている臨床実習のほか、建学の理念(実学教育・人間教育・国際教育)のもと、カリキュラムに学外実習を計画的に配置している。 ・リハビリ系学科は隣接するデイケア、保育園で実習授業を行っている。救急系学科も、病院、企業の施設などで実践的なプログラムを行っている。	・令和７年度も三田校と連携した海外研修を計画していたが、旅費の高騰で募集ができなかった。	3.7	・今後も海外研修の開催は難しくなるのでバリアフリー展や学会参加、先進的な施設見学等での”先端”にふれる機会をもてたらと思います。
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	・防災体制については、防火管理責任者を配置し、防災計画作成と防災訓練を実施している。また、災害時に備え、学生、教職員の安否をメールで確認するシステムも構築している。開校から５年間は学生数の増加が大きいので、防災訓練、安全管理体制は毎年見直す必要がある。	・校内の安全は、環境衛生委員会で教員の意識を高め、管理センター職員が常時巡回を行い、注意を払っている。	4.0	
7　学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか 7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	4	・兵庫県専修学校各種学校連合会の規定に基づき、募集開始時期、募集内容を遵守している。また、学校案内・募集要項をはじめとする資料は、上記の定めたルールに遵守したものとなっている。高等学校への訪問で本校への理解を頂き、高等学校のご意見を直接聞いている。ホームページにおいても上記のルールを遵守したものになっている。	・卒業生が6期生まで輩出し、高校毎にまとまった人数の実績を可視化することができるようになり、より高校訪問を強化している。	3.9	・退学率の低減にもつながるのでモチベーションの高い学生の確保は大切。高校訪問や入学選考も引き続き強化していってほしい。 ・どのような職業なのかより分かりやすく伝える方法や、実際の仕事内容を見学できる機会があると想像しやすいと思います。また、中学生や高校生がトライやるウィークやインターシップを通して学校の雰囲気を知ってもらうのも良い機会かと思います。インスタグラムの活用も有効的だと思います。 ・他校との差別化（特色化）に努め、学部ごとに鮮明にすることが大切です。されていると思いますがすばらしい。 ・学力の低い学生を受け入れる為、授業についていけない方も存在するかと思います。教員の方の努力だけでは難しい学生もおられると思います。職能団体としても学生確保に対して養成校と更なる連携に努めてまいりたいと思います。 ・学生の獲得は大変だと思います。良い学校ですのでおのずと集まってくるのではないかと思います。
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	・アドミッションポリシーを明確にし、ホームページでの掲載や学校説明会で説明をしている。学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。 ・各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。また、選考終了後は選考会議により合否を確定する。面談結果、書類内容、選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来業界で働くことに適正があるかを総合的に判断している。	・将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面談の比重を高くしている。結果として学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。 ・入学選考で得た個々の情報を収集・分析して、入学前教育の内容や入学後のサポートなどについて、見直しをし、実施している。		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか 7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について適正な取扱いを行っているか	4	・学納金は、各学科の教育目標達成を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費（講師、教職員）、実習費、施設運営費等に当てられている。 ・毎年、各学科において教科書・教材及び担当講師の見直しを行っており、諸費用の無駄な支出をチェックしている。 ・また、入学辞退の取り扱いについては、募集要項に明記して対応している。	・入学以前の募集要項やオープンキャンパス時の保護者会において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。 ・また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたってのアドバイスを実施している。		

項目	点検項目	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
8　財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	・厳しいチェック及び評価が行われ、中長期的に財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。 ・５ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができ、財務基盤の安定につながっている。	・安定した運営を継続的に行うため、各学科における1学年の募集定員の充足率１００％を目指し、退学率の低減を図る。	3.9	・募集人数の増加と学生の質の確保の両立は難しいと思うが、適切に運営されていると感じる。
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	・５年を見越した収支計画も作成しているが、単年度予算についても、学校、学園本部、理事会・評議員会でチェックしているので適正な執行管理になっているものと考える。	・予算→四半期予算実績対比→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	・監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の監事からの意見が述べられている。 ・監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	・私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	8-31-1　私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	・財産目録、貸借対照表、収支計算書、監査報告書など財務情報公開の体制整備は出来ている。	・当法人の財務情報公開に関しては、常務理事が統括し、事務局長が責任者として担当する。また、事務担当者を置いて現場対応を行っている。＜公開書類＞①財産目録 ②貸借対照表 ③収支決算書 ④事業報告書 ⑤監査報告書		
9　法令等の遵守	9-32-1　法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	・法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、整備されている。カリキュラムや教員要件はしっかりチェックし、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する研修を実施している。 ・監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。		4.0	・ホームページは情報も多くわかりやすいと思います。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	・学内で個人情報保護規定を定め、個人情報保護委員会が中心となり運用している。 ・教職員に対しては、①個人情報保護責任者は認定CPOアカデミック講座を通して、学校等における個人情報管理責任者として必要となる知識を習得、②認定CPAアカデミック講座を通して学校等における個人情報取り扱い従事者として個人情報を取り扱うために必要となる知識を習得している。 ・学校は個人情報の集積であるとも言える。教職員学生においては、更なる理解を深め、定期的な研修を開催し、意識を高めていおく必要がある。	・外部機関の「ＴＲＵＳＴｅ」より国際規格の認証を獲得し、ホームページ上に明記している。 ・学生と講師に対しては、毎年、オリエンテーションなどにおいてITリテラシーについてや個人情報保護について冊子を用いて伝えている。		
	9-34-1　自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 9-34-2　自己評価結果を公表しているか 9-34-3　学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 9-34-4　学校関係者評価結果を公表しているか	4	・平成30年度(開校)年度の自己点検・自己評価を令和元年度から開始し、結果をホームページに掲載している。 ・令和2年度からは学校関係者評価委員会を組織・開催し、評価に基づき短期的・中長期的課題の整理を行い、改善に取り組んでいる。結果はホームページで公表している。	下記ＨＰアドレスにて情報公開している。 http://www.hmc.ac.jp/about/joho		
	9-35-1　教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	・教育情報、教育活動はホームページに掲載しており、情報公開は行っている。			

項目	点検項目	評　価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評　価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
10　社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	・職業教育を通して社会に貢献することが本校の使命であり、学校の理念「4つの信頼」の中で、地域からの信頼を掲げ、社会貢献、地域貢献に積極的に取り組み、地域の方々からの信頼を得られることを行動の指針としている。 ・学校行事の学園祭は地域貢献を目的として、また、医療系専門職の教育は地域の医療・福祉活動に参加を推奨している。 ・キャリア開発の一助として高校での医療系職種説明会等にも講師を派遣している。 ・「建学の理念」に国際教育を掲げており、グローバルな視点と感性を持ち、外国の方たちともコミュニケーションが取れる医療人材になることを目的として「コミュニケーション英語」の修得や２年次には「国際教育」の教育プログラムも実施している。	・作業療法士科2年生が授業の一環として「ダウン症サッカースクール」のサポート、地域の城巽地区のイベントにサポートととして参加させて頂いた。 ・兵庫県専修学校各種学校協会主催による「トキメキ仕事体験」事業にて高校生のキャリア意識促進のための体験学習や高校のインターシップを受入れた。 ・Ｒ7年度は、中学のトライやるウィークの1校受入れも行った。また、姫路地区専門学校協議会として、姫路市教育委員会の後援を受け、市内中学校の生徒を対象にした「トライやるウィークを活かしたキャリア教育プログラム」をＲ7年１２月に開催した。Ｒ8年度は８月に開催予定。 ・救急救命士科では、白鷺地区の防災訓練のサポートを教員とともに行い、白鷺小中学校のボランティアの生徒さんとの交流も図った。	3.9	・多彩な活動はすばらしい一語につきますが、また事故も伴いますので細心の注意が大切です。よろしくお願いします。 ・1人の学生が同じボランティア活動に継続して参加できる仕組みを。自信や自主性がより生まれやすいと思います。
	10-36-2 国際交流に取組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	・学内に専用掲示板を設け、学生には地域や施設でのボランボランティアは積極的に推奨している。ボランティア精神を持って、主体的に活動できるよう指導している。	・地域の「城巽地区イベント」「白鷺小中学校の勉強サポート」「姫路城マラソン 救護ボランティア」など、毎年学校として継続的に参加しているものや、姫路市社協、県内の地域、医療福祉関連施設からの単発的なボランティアに学生が自主的に参加している。		